

時津町B&G海洋センター

「次世代型海洋センター艇庫を活用した地域の魅力創生」事業

事業報告会

2023年3月15日(水) 時津町B&G海洋センター

1. 実施までの背景

時津町

これまで、当町の艇庫では海洋性レクリエーションの拠点として、地道に事業を実施してきたが、「**事業のマンネリ化**」の解消や移住者・転入者等への海洋センター「**認知度のアップ**」、トイレやシャワー「**設備等の利便性**」を課題としていた。

多くの人々が気軽に参加できるようなイベントの実施をはじめ、小さなお子さんのいる家族や高齢者までが利用しやすい艇庫に「**リニューアル**」し、近隣市町には無い「**時津町の魅力**」の一つにしたい。

B&G財団

艇庫機能が主である艇庫を多機能化することで地域コミュニティの拠点や海レク活動のみにとどまらない多様な取り組みを行い、全国のモデルとなるような施設・活動を行う。

2. 事業目的

目的

「艇庫」をこれまでの海洋性レクリエーション体験のみを行う施設としてだけでなく、青少年から高齢者にいたる「幅広い対象者」に向けて、海洋性レクリエーションに止まらない「複合的かつ多様な活動」を生み出し、海や自然、地域に親しむ事業拠点化を目指す。

テーマ

学校教育と連携した「里海 大村湾」を活用した
海洋教育推進の拠点化

3. 次世代型艇庫整備等に関する協定書(一部抜粋)

(目的)

第1条 本協定は「時津町B&G海洋センター」の次世代型艇庫の整備及び事業の展開に対し、甲乙が互いに円滑に事業を推進できるよう連携体制を構築しながら、事業を推進することを目的とする。

(連携協力事項)

第2条 甲乙は、次の事項について連携協力し、事業を推進する。

- (1)「里海 大村湾」を活用した海洋教育推進の拠点化に向けた時津町B&G海洋センター次世代型艇庫の有効活用
- (2)学校教育への海洋教育導入に向けた各種事業への協力
- (3)地域住民を対象とした時津町B&G海洋センター次世代型艇庫の活用促進のための新たな教室および各種イベントの開催
- (4)その他、艇庫活用にむけた業務への協力

(協定期間)

第5条 本協定の期間は協定締結の日から2023年3月31日までとする。

【調印式 2020年7月30日】

4. 支援内容

2020年度改修工事及び配備器材・備品

内容	総額	財団助成金額 (多機能化に係る備品代を含む)
多目的室増築、外壁、屋根補修工事、2F事務室の天井・壁改修、トイレ・シャワー更衣室改修 他	51,161,080円	22,000,000円
救助用ゴムボート、SUP・BIG SUP 8艇※パドル含む テーブル・マット・ホワイトボード・スクリーン等		

事業費支援

	内容	財団事業費支援
2020年度	マリンデーフェスタ・教員向け艇庫体験会 等	約2,600,000円
2021年度 ※延長事業分含む	海のおSeaごとフェスタ・生物観察会 等	約2,800,000円

5. 施設改修について

■改修前後の写真



艇庫外壁改修前



艇庫外壁改修後



男女共用だったトイレが別々に



体育館と艇庫の間の多目的室建設予定地



多目的室が完成し、体育館から艇庫まで連結



多目的室にはクライミングウォールも

6. 年度ごとの事業内容及び目標値

年度	主な事業・内容	NF目標	利用者数
2019	改修前	—	1,018人
2020	・マリンデーフェスタ ・教員対象研修会 ・艇庫未体験者	1,300人	1,609人
2021	・教員対象研修会 ・艇庫未体験者 ・学校での海洋教育事業	1,700人	2,308人
2022	・海のおSEAごとフェスタ ・艇庫未体験者 ・学校での海洋教育事業	1,700人	2,211人 (2月末現在)

7. 事業詳細

(1) 交流活性化事業

イベント

(2) 海洋教育事業

教育

(3) 艇庫未体験者向け事業

幅広世代

(4) 多目的事業

**室内運動・
子育て支援**

(1)交流活性化事業 イベント

- ①マリンデーフェスタ in とぎつ
- ②子ども会マリンスポーツ体験
- ③海のおSeaごとフェスタ

(1) 交流活性化事業(地元住民)

① マリンデーフェスタ in とぎつ

【概要】

次世代型艇庫活用事業のメイン事業として実施。
「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を活用する」といった4つのテーマごとにマリンスポーツ体験をはじめ、各テーマに沿った内容のブース展開を行った。

年度	参加人数
2020	228人
2021	中止(目標350人)
2022	中止(目標350人)



(1) 交流活性化事業(地元住民)

②子ども会マリンスポーツ体験

【概要】

町内にある子ども会単位で、申し込みを受け付け、約2時間、カヌー・SUPとバナナボート等の海洋性レクリエーションを実施します。

【結果】

はじめは、元気が出せない子ども達も終わる頃には、「バディー」の掛け声も大きく、楽しんでいる様子でした。



年度	参加人数
2020	—
2021	10団体153人
2022	14団体183人

(1) 交流活性化事業(地元住民)

③海のおSeaごとフェスタ

【概要】

マリンデーフェスタの代替事業として実施。

- ①水中ドローンによる実況生中継
- ②ペンギン水族館のタッチプール
水産試験場の実験コーナー
自衛隊による南極氷の展示
- ③マグロの解体ショー

【結果】

100人を想定して募集を行ったが、160名の参加

年度	参加人数
2020	—
2021	—
2022	160人



(1) 交流活性化事業【成果・課題】

【成果】

交流活性化事業は、多くの方々に参加できるイベント型の事業を通して、「海に親しむきっかけづくり」や「海への興味の第一歩」を広く働きかけることを目的とした。

「マリンデーフェスタ」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度の1回しか開催できなかったが、この1回の開催と、代替事業である「海のおSeaごとフェスタ」を通して、多くの参加者の笑顔と楽しむ姿を見ることができ、大人も子どもも「海に親しむ」ことのすばらしさや海への関心を持ってもらうことができた。

【課題】

イベント開催は、一回で多くの参加者に対し、(海に親しむ)きっかけづくりを行うことのできるものであるが、より多くの方にマリンスポーツを体験してもらうためには、イベントの「**運転効率**」や、カヌーなどの「**舟艇の数**」、「**スタッフ数**」などの問題があるため、効率の良いイベント内容にしていく必要がある。

(2) 海洋教育事業(学校等)

① 学校授業での海洋教育の実施

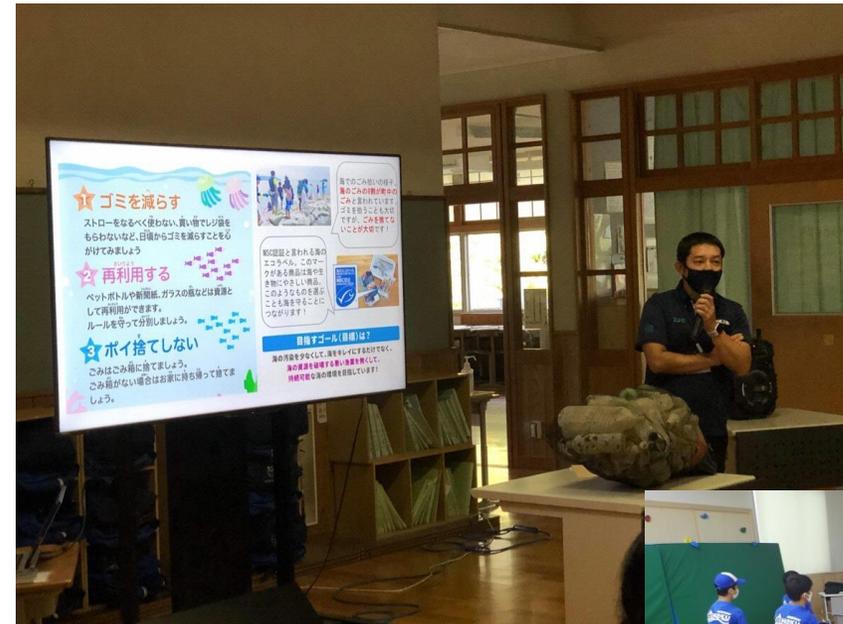
【概要】

海洋環境の状況を専門のから紹介してもらったり、センター職員が大村湾のゴミの現状を話すなど、**出前型学習**や**多目的ルームでの学習**を行った。

【結果】

2か年で4回実施したうちの、3回は出前授業という形で実施。また、1回は長崎大学の教授を招き、艇庫多目的ルームで実施した。

年度	参加人数
2021	174人
2022	80人



(2) 海洋教育事業(学校等)

② 教員対象艇庫体験会

【概要】

カヌーやSUPで鷹島に渡り、そこでクリシタン記念碑の説明を実施。その後、海洋生物の観察・解説を行って、帰りもカヌー、SUPで戻った。

【参加教員アンケート回答】

- ・素直に楽しかった。サップが楽しすぎた。
- ・自分が体験することで気づく楽しさや学びを子どもにも伝えたい。
- ・機会があれば海洋教育にぜひ取り組んでいきたい。

年度	参加人数
2020	19人
2021・2022	中止(目標20人)



(2) 海洋教育事業(学校等)

③大村湾の環境学習、水辺の生物観察会

【概要】

水辺の生き物を探しました。先生に見せて、その名前や生態などを教えてもらって、しっかりと観察した。

【結果】

2021年度は、冬に実施。水中ドローンを使って、目の前の海底を多目的ルームで観察した。
2022年度は、町内の鷹島に渡り、実際の生き物を採集し観察した。



年度	参加人数
2021	33人
2022	18人

(2) 海洋教育事業 【成果・課題】

【成果】

海洋教育を、学校授業として実施することはハードルが高いため、まずは教職員の研修や、出前授業、総合学習の一コマとして実施するなど、教職員の理解や近隣学校の協力のもと実施が実現できた。北小学校は5年生の総合学習の一コマとして位置づけ、2か年連続の実施となり、このことは担当の教諭に海洋環境の学習の意義を理解してもらえたためと思われる。

【課題】

町内の学校は、立地場所により、「移動時間」や「移動方法」の制約があるため、事業の内容に加えて、その点が課題とされる。

また、一つの対象者につき1回の事業は実施できたが、広い内容での学習になるため、今後は「**テーマ**」を設けて、深く掘り下げた複数回に渡る学習を行うことも必要であるのかも検討課題となる。

(3)艇庫未体験者向け事業(海レク)

①大人のヨット体験、大人のディンギー教室

【概要】

風を受けて、進むヨットを体験します。

【参加者アンケート・感想】

- ・一度ヨットに乗って見たかった。
- ・時津町でヨットに乗れるなんて幸せです。
- ・操作もさせてもらって楽しかった。
- ・ヨットって難しいですね！

年度	参加人数
2021	21人
2022	15人



(3)艇庫未体験者向け事業(海レク)

②中高年対象SUP・カヌー教室

【概要】

初回はプールで安全にSUPやカヌーの乗り方を覚え、2回目からは、海で実践。

海では、ライフジャケット浮きなど、安全教室も実施。

【参加者アンケート・感想】

- ・風が強いと、SUPは難しいことがわかった。
- ・天候で乗りやすさがこんなにも変わるのかと思った。
- ・カヌーを続けてやりたい。
- ・高齢者でも参加のイベントありがとうございました。

年度	参加人数
2020	27人
2021	45人
2022	33人



(3)艇庫未体験者向け事業(海レク)

③ジュニアマリンスポーツ教室

【概要】

子ども達にとって、夏休みの楽しい経験、思い出を残すため、水辺の安全教育、SUP・カヌー、バナナボート、海水浴を4回コースで実施。

【結果】

マリンスポーツも海水浴も生き物採集も、時間を忘れて熱中する子ども達の姿があった。

年度	参加人数
2020	36人
2021	31人※コロナにより2回
2022	62人



(3)艇庫未体験者向け事業(海レク)

④ジュニアヨット体験

【概要】

海洋クラブ員の乗るヨットに乗船して、舵やロープの操作を体験する。ヨットがどうやったら進んで、止まるためにはどうするのか、ということを知ってもらう。

【結果】

ヨットの楽しさや艇庫活動に興味を持ち、海洋クラブへ加入する子どもがおり、クラブ員の増加に一役かっている事業となった。

年度	参加人数
2020	20人
2021	40人
2022	22人



(3)艇庫未体験者向け事業(海レク)

⑤ママさん軽スポーツ教室

【概要】

子どもを保育士に預けて、ママさんは様々なスポーツや運動にチャレンジする。

【結果】

- ・ママ友ができたり、子どもを預けて安心して体を動かすことができた。
- ・ママさん自主クラブ結成に繋がった。
- ・海洋性スポーツにも積極的に楽しむ方が多く見られた。



年度	参加人数
2020	91人
2021	184人
2022	193人

(3) 艇庫未体験者向け事業 【成果・課題】

【成果】

これまで、小学生をメインとした教室等を実施していたが、この3年間で高齢者をはじめ、中年世代や小さな子どもを持つママさんを対象とした事業を実施したところ、少ないのではないかと考えていた参加者も定員または定員を超える申し込みもあった。参加者からは、カヌーやSUPを続けたいとの声もいただき、海洋クラブへの加入につながり、海洋クラブの活性化を長年模索していたことが、この事業により、飛躍的に前進した。

海洋クラブ区分	2019年度	2022年度
大人(夏場の活動)	不在	17人
ジュニア(通年会員)	7人	18人

【課題】

今後も多世代を対象とした事業を実施して、艇庫活動の活性化を図っていきたい。
より多くの町民に海洋性レクリエーションをはじめとした艇庫活動を体験してもらうためには、
「夏場の限られた期間」の中で、教室の回数や1回あたりの定員を増やす等の工夫が課題となる。

(4) 多目的事業(海レク以外)

①シニアストレッチ&ウォーキング教室

【概要】

プロジェクターで解説をしながら、ストレッチを行い、残りの時間で正しい姿勢でのウォーキングをする。

【参加者の声】

- ・「体調が良くなった」
- ・「体のどこをストレッチしたら良いのかが分かった」

健康づくりに重要な「継続」と「正しいやり方」を身につけてもらうことができた。

年度	参加人数
2021	152人
2022	144人



(4) 多目的事業(海レク以外)

②シェイプアップ教室
(冬太り解消体幹トレーニング、美脚トレーニング)

【概要】

専門講師による体幹トレーニングや美脚のための下半身中心のトレーニングを実践。

【結果】

初めて海洋センターの教室に参加したという方もいたことから、運動不足の方の新規開拓につながった。

年度	参加人数
2021	28人
2022	39人



(4) 多目的事業(海レク以外)

③ 幼児(対象)教室 (幼児体操、幼児ダンス、親子ふれあい広場)

【概要】

親子のふれあいや様々な動きを伴う遊びを通して、運動を行う。

【結果】

全力で走り回ったり、いろいろな動きに興味を示して楽しむ様子を保護者が見て、子どもとのふれあい方や遊ばせ方を学んだ。
子ども達の運動に親しむきっかけの一つとなった。

年度	参加人数
2021	66人
2022	95人



(4) 多目的事業(海レク以外)

④のびのび・すくすく倶楽部 図書館出張お話し会

【概要】

家庭教育支援事業の「のびのび・すくすく倶楽部」が色水遊びで艇庫前を使用。
時津図書館の出張お話し会を多目的ルームで実施。

【結果】

水遊びの事業はもとより、図書館の出張お話し会など、海洋センターと関わりの少ない方にも足を運んでもらうことができた。

年度	参加人数
2021	104人
2022	20人



(4) 多目的事業 【成果・課題】

【成果】

艇庫事業以外の教室を実施したり、普段、コミュニティセンターで実施している家庭教育事業などを多目的ルームや艇庫周辺で実施してもらうことにより、これまでの海洋性レクリエーション以外の事業でも用途によっては使いやすい施設だということがわかった。

特に、ママさん軽スポーツ教室の際に、すぐそばの多目的ルームで託児ルームとして使用できるというのは、お母さんたちにとっても安心して運動ができるといった利点が非常に大きい。

【課題】

託児ルームや水遊びがさせ易いという強み、エアコンのある多目的ルームが寒暖の強い時期は活用できるといった強みがあるが、壁面のボルダリングをはじめとした、これまでにない、スポーツでの使用方法を検討し、もっと「**活用の幅**」を広げていく必要がある。

7. 事業全体を通じたふりかえり

年度	人数
2019年度 (改修前)	1,018人
2020年度 (改修工事)	1,300人 ⇒ 1,609人
2021年度	1,700人 ⇒ 2,308人
2022年度	1,700人 ⇒ 2,211人(2月末現在)

7. 事業全体を通じたふりかえり

艇庫の改修により、きれいになったトイレや充実したシャワー設備が整ったこと、また、カヌーやSUP、救助艇などの器材配備といった「ハード面における整備」ができたため、教員を対象とした事業や高齢者を対象とした「新たな事業」を行うことができた。

新たな事業から海洋クラブへの誘導により、「成人海洋クラブが復活」し、艇庫活動の活性化に繋がったことで、利用者数の目標値を超えることができた。

また、近隣小学校において、海洋環境の学習が総合学習の中で2年連続実施され、「海洋教育の推進」に繋がった。

8. 今後の事業展開について

「B&G海洋センター」をアピール

「マリンスポーツができる町」をアピール



艇庫にとどまらず、出前講座の実施、出張イベント

マリンデーフェスタなどの多くの方が参加できるイベント

9. 次年度の主な艇庫事業

交流活性化事業

マリンデーフェスタ

大村湾活性化事業(タイアップ事業)

海洋教育事業

近隣学校の海洋教育講座

水辺の生き物観察会(夏休み教室)

艇庫未体者向け事業

30歳から始めるSUP・カヌー教室

夏休みのジュニアマリンスポーツ教室

子ども会マリンスポーツ体験会

ママさん軽スポーツ教室(2コマ)

多目的事業

ミドル・シニアストレッチ&ウォーキング教室

ゆるふわトレーニング教室

体力限界突破トレーニング教室

のびのび・すくすく倶楽部

10. まとめ

艇庫のリニューアルに際し、単なる改修にとどまらず、多目的な利用ができる整備となったことにより、**幅広い事業が可能**となった。

この改修助成にあわせ、次世代型艇庫活用事業の協定により、B&G財団から**「強力なサポート」**を受けることができた。このことで、マリンデーフェスタのような大きな事業や教員対象の艇庫体験事業の実施ができたということは、紛れもない事実である。



2023年度
目標5,000人！！

協定期間終了後も、さらに艇庫を次世代型として活用し、モデルセンターとなり得るように、斬新なアイデアや推進力を発揮して、事業を実施していく。